

大浦天主堂キリシタン博物館

大浦天主堂の右側の下方には、外壁にギャラリーがついた2つの古い荘厳な古い建物が立っています。白い漆喰塗りの羅典神学校は1875年、赤レンガの大司教館は1915年に建てられました。どちらも多才であった外海教区の司祭マルコ・ド・ロ神父によって設計された建築物です。2018年、長崎大司教区はこれらをキリシタン博物館として開設しました。

1864年に建設された大浦天主堂は、長崎で最も古いカトリック教会です。1865年3月17日、浦上の潜伏キリシタンたちがベルナール・プティジャン神父に自分たちの存在を明かした「信徒発見」と呼ばれる出来事が起こったのはこの場所でした。プティジャン神父は、説教のため長崎各地を訪れた際、しばしば、地元のキリシタン集落が禁教期中に使っていたマリア観音像などの古い信仰具と引き換えに、新しいメダイやロザリオ、十字架などを授けました。そして、そのような古い信仰具を大浦天主堂に持ち帰りました。その結果、長崎大司教区は数多くの興味深い潜伏キリシタンの遺物を所有しており、その一部はこの博物館に展示されています。また、大浦天主堂キリシタン博物館では日本におけるキリスト教伝来・弾圧・復活の歴史がわかりやすく年代順に紹介されています。